

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 5 7	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
Prevalence and correlates of DSM-IV major depression in an Australian national survey. オーストラリア全国調査で明らかになった精神障害診断統計便覧第 4 訂診断基準による重症うつ病の頻度と関連因子	
執筆者	
Wilhelm K, Mitchell P, Slade T, Brownhill S, Andrews G.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Affect Disord. 2003 Jul;75(2):155-62.	
キーワード	
重症うつ病、有病率、性差、リスクファクター	
要 旨	
<p>(背景)</p> <p>1970 年代から地域成人住民における調査でうつ病の発症率が報告されている。しかし、オーストラリアにおける全国規模の疫学調査はこれまで行われていない。本研究ではオーストラリアにおける精神健康度全国調査のデータを用いて重症うつ病の 30 日間発症率とその関連因子について検討した。</p> <p>(方法)</p> <p>国際基準の診断目的面接法 (第 2.1 版) のコンピュータ版を用いて全国調査を行った 18~75 歳の 10,641 人を対象とした。</p> <p>(結果)</p> <p>重症うつ病の調整 30 日間発症率は全体で 3.2%で、中年女性では 5.2%で最も高かった。この発症率は米国全国調査の結果と Catchment 地域疫学調査の結果の中間にあり、英国精神疾患調査の結果と同程度であった。重症うつ病発症と最も強く関連する因子は、失業、喫煙、疾病を有することであり、次に中年であること、離婚、女性であることが関連する因子として続いた。伴侶がいて毎日 1~2 杯の飲酒をすることが重症うつ病発症と最も関連が低かった。発症関連因子のいくつかは社会的不利状態と生活習慣とに関係があった。但し、本研究では因果関係の特定が出来なかった。</p> <p>(結論)</p> <p>重症うつ病の発症を抑制するためには公衆衛生学的手法を用いて喫煙、社会隔離、不健康状態、気分および身体的健康との関係を細心注意することが必要である。この手法を用いるべき最善の対象はプライマリーケアの現場であろう。</p>	